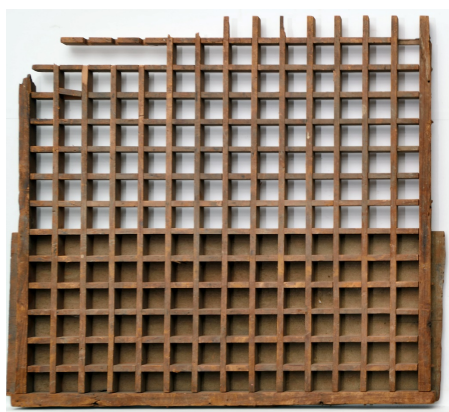




名称	三原城本丸大広間建築部材
よみがな	みはらじょうほんまるおおひろま けんちくぶざい
指定	市指定
種別	重要文化財
種類	歴史資料
所在地 所有者	円一町 三原市歴史民俗資料館 三原市
員数	杉戸1枚 小組格天井部材6点
指定年月日	平成 30 年(2018)12 月 20 日
構造形式	木製
法量	杉戸(190.0cm×140.0cm) 小組格天井(42.6 cm×44.8 cm)
時代	桃山時代
公開状況	特別公開時のみ閲覧可
交通案内	JR三原駅から南へ約 1km

【解 説】

三原城本丸御殿の建具、天井部材として使用されたと伝わるものです。明治13年から大広間を旧三原小学校の教室として使用し、当時の学生が三原城大広間の前で記念撮影をした古写真が残されています。本資料は長らく三原市立三原小学校で所蔵されていました。杉材の一枚板で、剥落が見られるが「竹林に虎」が描かれています。「竹林に虎」の戸は、名古屋城本丸御殿・二条城二の丸御殿・本願寺といった例から玄関や遠侍といった御殿の入口に用いられるものです。製作年代は、小早川隆景が本丸御殿を築造した16世紀末期頃の制作と考えられます。